



トラフグ

伊勢・三河湾系群

主な漁業と漁期等

はえ縄: 10月～翌年2月
漁獲対象: 1歳魚以上

生態

●分布・回遊

静岡県で漁獲されるトラフグは、伊勢・三河湾系群に属します。この系群は、紀伊半島東岸から駿河湾沿岸域を主な生息域とし、標識放流の結果等から、他の海域の資源とは独立した一つの系群と考えられています。

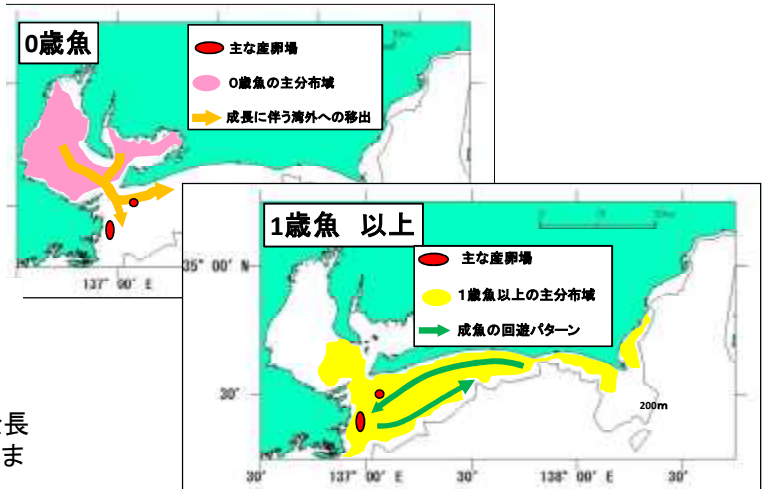
●年齢・成長

成長は早く、1歳で全長26cm、体重0.4kg、2歳で全長40cm、体重1.4kg、3歳で全長48cm、体重2.9kgに達します。寿命は10年程度と考えられています。

●産卵期・産卵場

産卵期は4～5月とみられ、成熟年齢は雄で2歳、雌で3歳です。

産卵場は、底質の粒径が2mm以上の礫混じりの粗砂を選択的に利用しており、このような条件を備えた産卵場として、三重県安乗沖及び愛知県渥美外海(通称: 出山)周辺水域が知られています。



トラフグ伊勢・三河湾系群の分布・回遊 模式図

●生息場所・食性

ふ化仔魚は潮流により伊勢・三河湾内に運ばれ、干潟域や河口域で全長6cm前後まで成長します。その後、遠州灘や熊野灘などへ生息場所を広げていきます。食性は、仔魚後期までは主に動物プランクトン、稚魚期は小型甲殻類、未成魚期は各種幼魚や甲殻類、成魚期は甲殻類や魚類を好んで食べます。

漁業・資源動向

【資源】

- 1 伊勢・三河湾系群における2022年度の資源評価は、資源量指標値を考慮したコホート解析により資源量を推定した結果、2021年漁期(4月～翌年3月)の資源量は144トンで、1996年漁期の134トンに次ぐ過去2番目に低い値になりました。
- 2 親魚量は2005年漁期以降は増減をしながらも60トン前後で推移し、2021年漁期の親魚量は57トンと推定されました。
- 3 なお、この系群は不定期に発生する卓越年級群*により大きな資源変動を示します。

* : 他の年に比べて発生量が多い年級群

《国の資源評価へのリンクはこちら》

ダイジェスト版

https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2022/digest_2022_74.pdf

簡易版

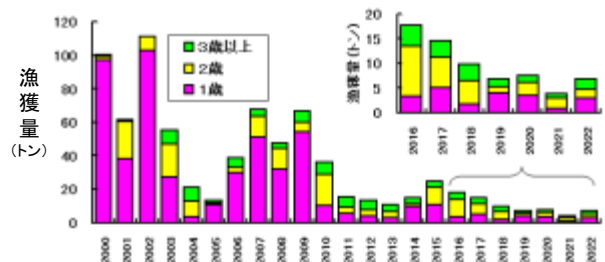
https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2022/simple_2022_74.pdf

詳細版

https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2022/details_2022_74-trafugu-IM.pdf

【漁業】

- 1 静岡県では、10月～翌年2月に、主に遠州灘で1歳魚以上がはえ縄で漁獲されます。
- 2 2000年漁期以降の県内漁獲量は、卓越年級群の発生による資源変動に伴い大きく変動し、3.8～120トンで推移していますが、近年低迷が続いており、2022年度は6.8トンと1993年以降、過去2番目に低い値になりました。



静岡県におけるトラフグ漁獲量の推移

【種苗放流】

同一資源を利用する3県の漁業者により、種苗放流が行われています。本県による放流尾数は、年間10万尾前後(全長4～5cm)です。

【資源管理】

資源保護のため、漁業者は小型魚(体重700g未満)は水揚げせず放流する自主管理に取り組んでいます。

担当者の一言: トラフグは、冬場に刺身や鍋物で賞味される高級魚です。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所浜名湖分場 053-592-0139